

自転車を取り巻く利用環境観察

連載 ⑫ 「幼児同乗時の危険な運転」

自転車安全利用研究会 谷田貝一男

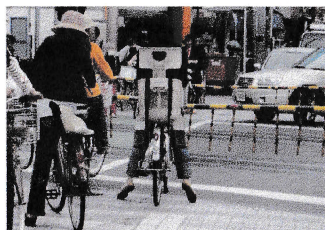


写真1 つま先だけで車体を支えている

6歳以下の幼児が自転車同乗中に発生した事故原因として、幼児同乗自転車を運転する人の危険な利用状況・通行状況があります。

停止時の足の置き方

交差点で一時停止するとき、つま先だけで車体を支えている運転者がいます(写真1)。この場合、車体と幼児の重さで転倒の危険性が高くなるため、かかとまで路面に着けて車体が垂直になるようにしっかりと支えることが大切です。

交差点を右左折するとき

幼児同乗時は特に右左折時に車体が傾いてふらつきやすいため、徐行や一時停止を避けて安全確認を行わない運転者が多くいます(写真2)。筆者が



写真2 徐行や一時停止を避けて安全確認を行っていない

幼児同乗自転車運転者127人に対して行ったアンケート調査で交差点右左折時に自動車・自転車・歩行

者と衝突しそうになるヒヤリハット経験者(複数回答)がのべ88人69・3%。自転車・歩行者と衝突経験者3人2・4%という高い数字を示しています。

歩道通行するとき

幼児を同乗して歩道を通行する自転車が歩行者の脇を通り抜ける(写真3)、対向自転車とすれ違うという様子が多く見られます。いずれの場合も接触したり互いに転倒したりして、幼

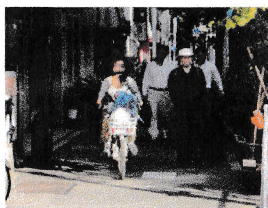


写真3 歩道で歩行者の脇を通り抜けている

児だけではなく歩行者や相手の自転車運転手も傷害を負う危険性が高い通行です。

並進

幼児を同乗した2〜3台の自転車が並進する様子が多く見られます。写真4は左側の自転車はセンターラインを越え、互いに横を向いておしゃべりしながら通行しています。並進は交通ルール違反であり、他の車両や歩行者との接触・衝突事故発生の危険性が高い通行です。

幼児は同乗中に事故が発生しても自らの身体を守る行動ができません。幼児の身体を守ることは事故を起こさない・事故に巻き込まれないことで、そのためには運転者に対して安全な運転方法を伝えることも重要です。



写真4 互いに横を向いて話をしながら運転している

い・事故に巻き込まれないことで、そのためには運転者に対して安全な運転方法を伝えることも重要です。